

DX・データ活用支援ナレッジ集について

**経済産業省関東経済産業局
地域経済部デジタル経済課**

令和6年9月

目次

1. はじめに
2. DX・データ活用の現状
3. 地域中小企業データ活用BootTest事業概要
4. DX・データ活用支援ナレッジ集について

1. はじめに

はじめに

経済産業省は、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するために様々な支援策を展開している。

昨今、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に企業の事業環境が劇的に変化した。そのような中で、データやデジタル技術を活用してビジネスモデルを抜本的に変革（DX）し、新たな成長を実現する企業が現れてきたが、日本全体でみると変革（DX）まで取り組んでいる企業はほんの一握りである。一方、少子高齢化による生産年齢人口の減少を要因とする人手不足を背景として、社会全体で生産性向上等の取り組みが注目され、デジタル化された様々なデータの取得・連携・活用によるビジネスプロセスの最適化やAI・ロボット等の先端技術導入によるオペレーションの効率化を実現する取り組みが求められている。

こうした環境を踏まえて、関東経済産業局（以下、「当局」という）では、令和3年度から令和5年度にかけて地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業（以下、「本事業」という。）を実施した。

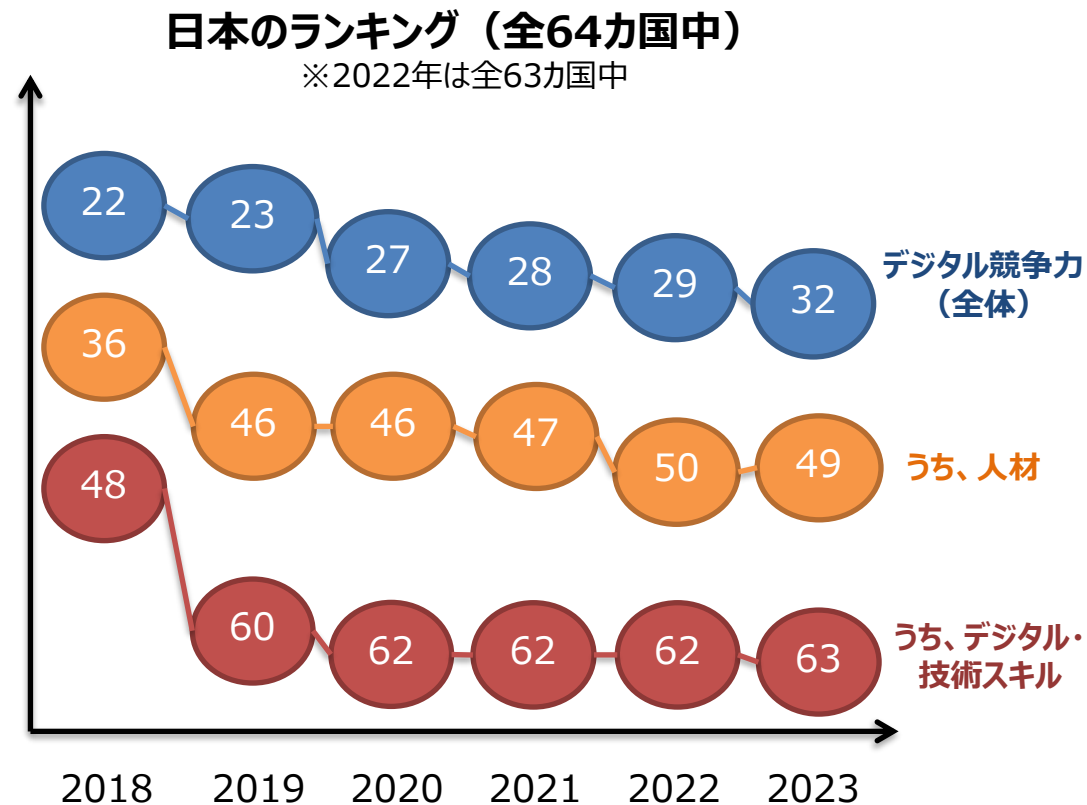
本事業では、地域の中小企業及び支援機関（自治体・外郭団体、地域金融機関等）を対象に、DX及びデータ活用推進による「企業競争力（＝稼ぐ力）の強化」を目的として、「DX・データ活用人材育成支援」を行ったもの。

本事業で得られた実績・ノウハウ等を取りまとめたものが「DX・データ活用支援ナレッジ集」（以下、「ナレッジ集」という。）である。ナレッジ集を参考に地域の支援機関及び企業が「どのようにDX・データ活用を実施するか」を理解し、地域企業自らのデータ活用への取り組みや、支援機関による地域企業に対するデータ活用支援への取り組みの一助になることを期待する。

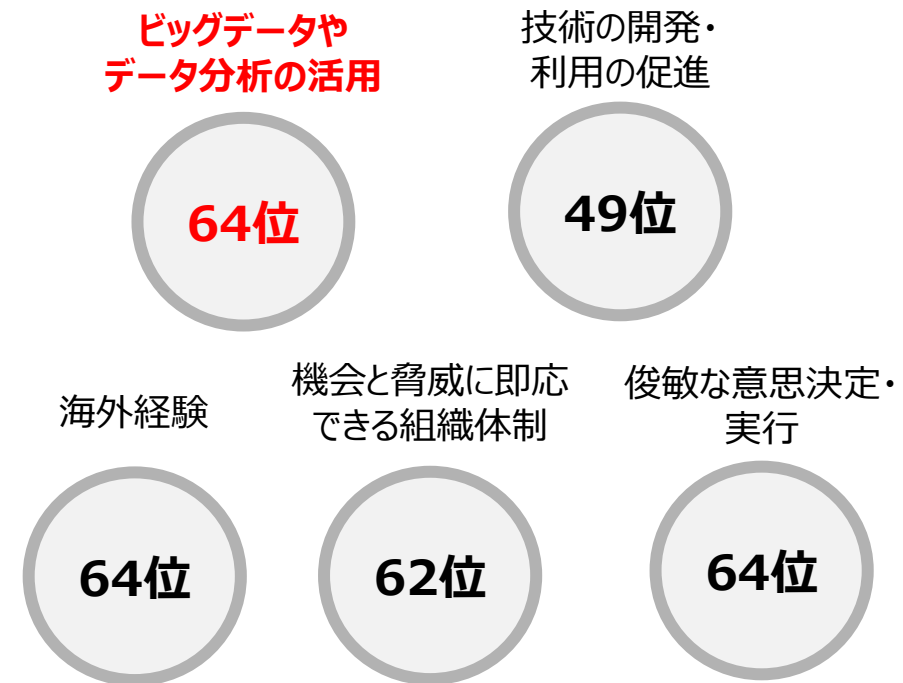
2. DX・データ活用の現状

日本のデジタル競争力は低迷している

- 世界デジタル競争力ランキング2023で、日本は64カ国中32位と低迷。特に「人材/デジタル・技術スキル」が、63位と低く、これが全体を引き下げる要因に。
- また、「ビッグデータやデータ分析の活用」は64カ国中最下位。



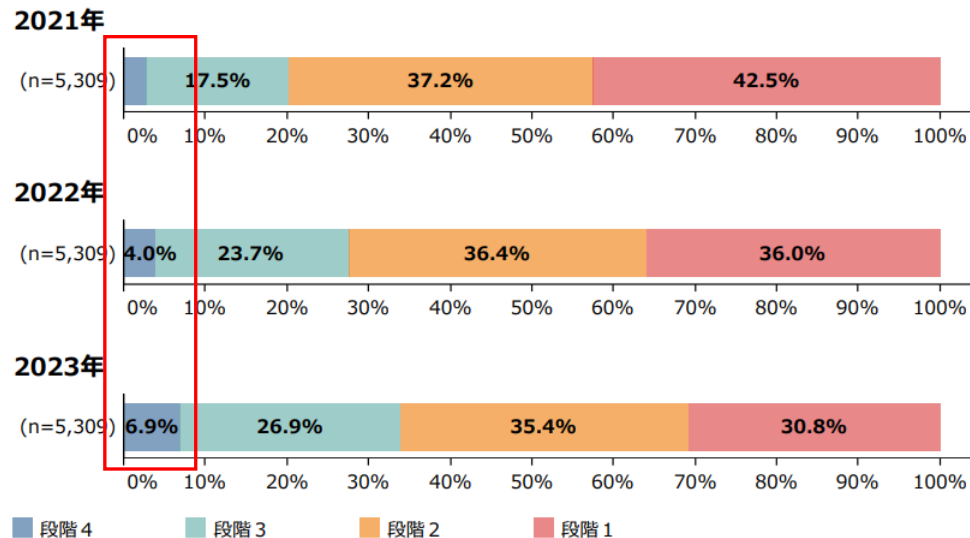
特に日本が低評価だった指標



地域企業におけるデジタル化・DXの取組状況

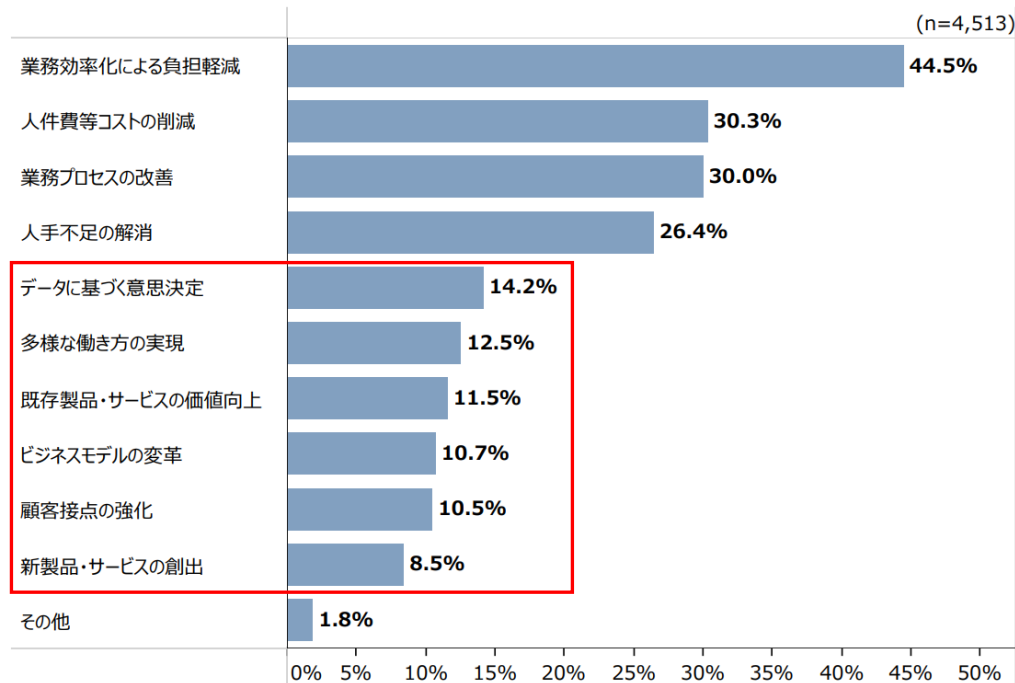
- 地域の中堅・中小企業においては、**データを活用した業務・ビジネスモデルの変革まで取り組んでいる企業は少なく**、「データ活用の必要性」を認識した上で、自社の保有データや市場データを有効に活用できる企業を地域において多数創出していくことが必要。

【中小企業のデジタル化の取組状況】



段階4	デジタル化によるビジネスモデルの変革や競争力強化に取り組んでいる状態 (例) システム上で蓄積したデータを活用して販路拡大、新商品開発を実践している
段階3	デジタル化による業務効率化やデータ分析に取り組んでいる状態 (例) 売上・顧客情報や在庫情報などをシステムで管理しながら、業務フローの見直しを行っている
段階2	アナログな状況からデジタルツールを利用した業務環境に移行している状態 (例) 電子メールの利用や会計業務における電子処理など、業務でデジタルツールを利用している
段階1	紙や口頭による業務が中心で、デジタル化が図られていない状態

【DXの取組によって期待する効果・メリット】



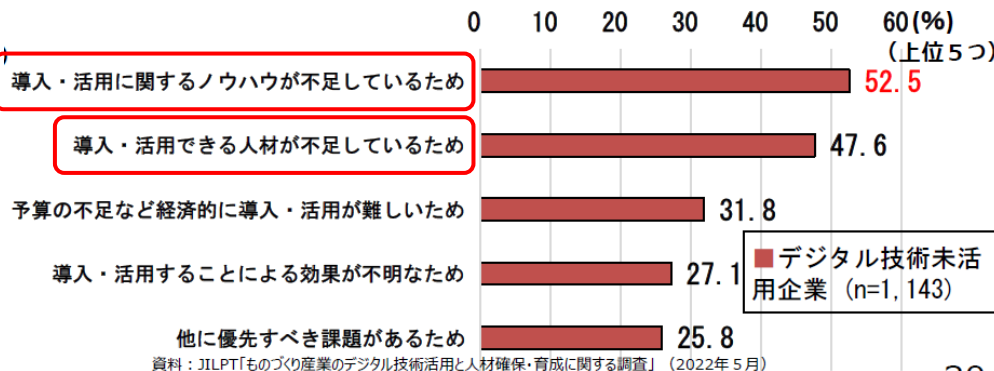
出典：中小企業白書・小規模企業白書（2024年版）より抜粋して関東経済産業局にて作成

- 注）1. デジタル化の取組状況として「分からない」と回答した企業を除く
2. 複数回答のため、合計は必ずしも100%にならない。

ものづくり企業におけるデジタル化に対応した人材の確保・育成の状況

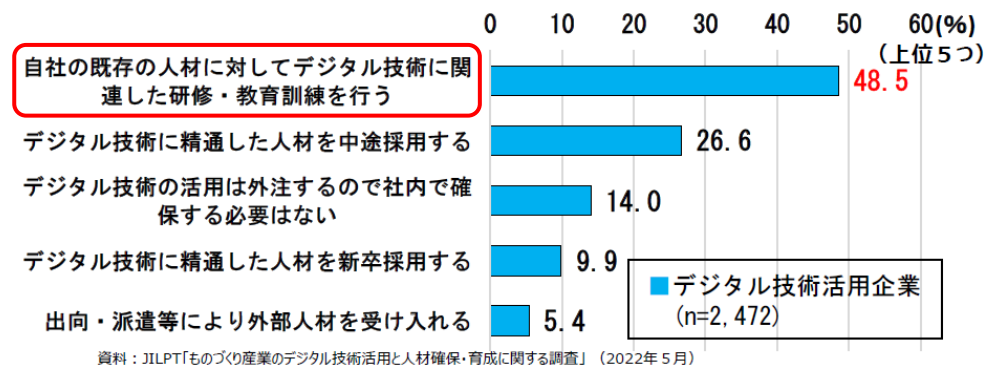
- デジタル技術を活用していない企業において、デジタル技術を活用しない理由は、「導入・活用に関するノウハウが不足しているため」、「導入・活用できる人材が不足しているため」が多い。
- 一方、デジタル技術を活用している企業のデジタル技術の活用に向けた人材確保の取組としては、「自社の既存の人材に対してデジタル技術に関連した研修・教育訓練を行う」が最も多い。

デジタル技術未活用企業におけるデジタル技術を活用しない理由



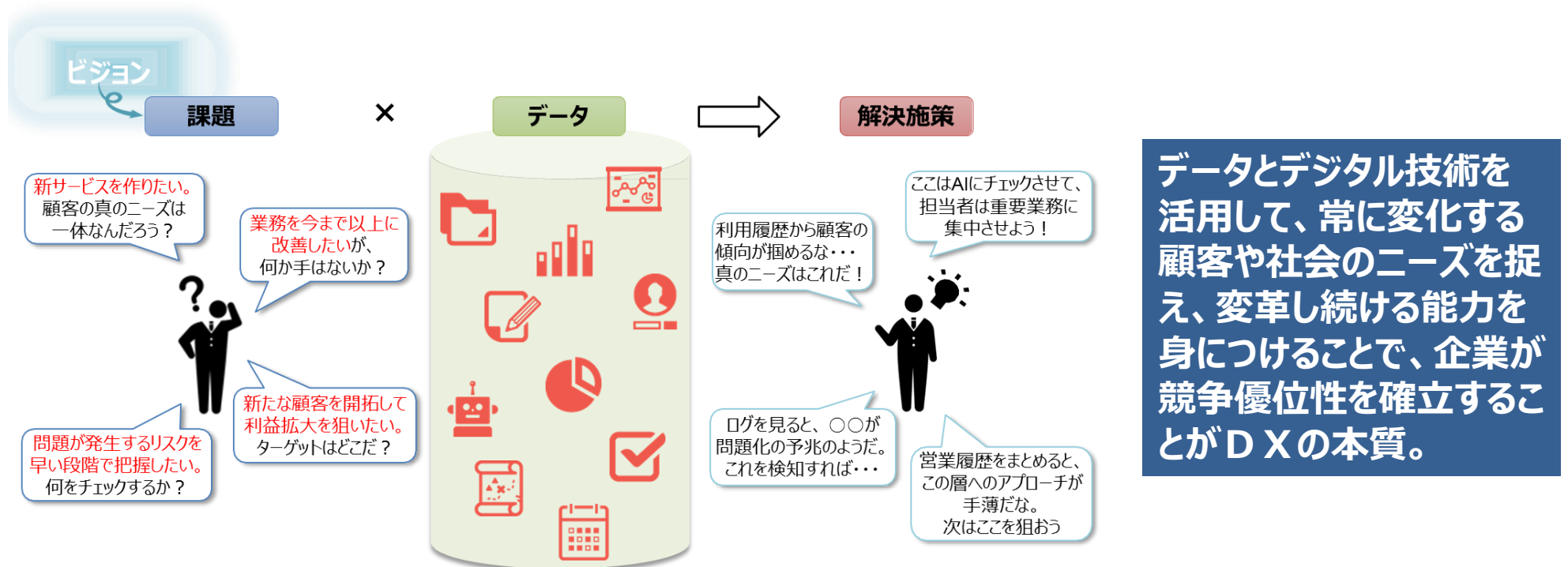
出展：「2023年版ものづくり白書」より

デジタル技術の活用に向けたものづくり人材確保の取組



地域企業におけるデータ活用促進の必要性

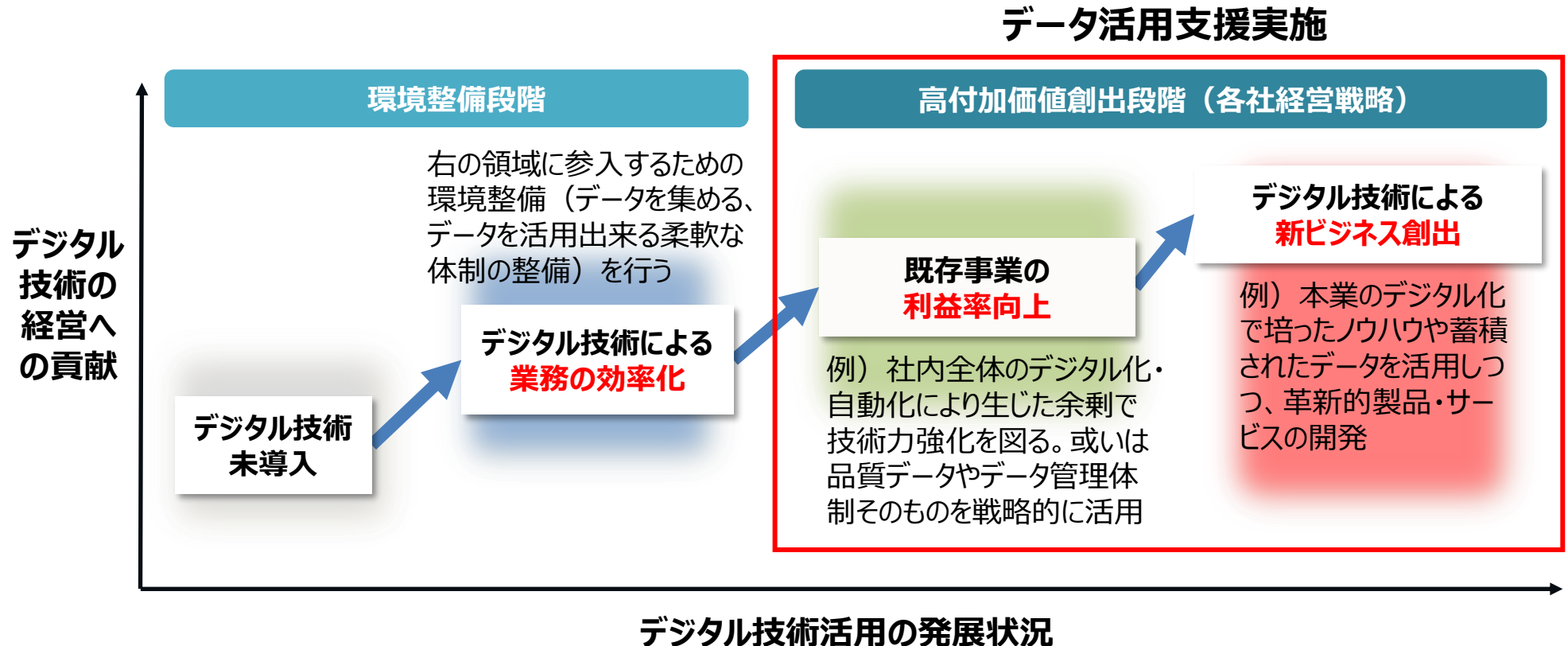
- 近年、企業の事業環境が劇的に変化してきている中、地域企業が変化に対応し「稼ぐ力」を向上するためには、デジタル技術を活用した業務・ビジネスモデルの変革（デジタル・トランスフォーメーション（DX））へ向けた取組が求められている。
- AI、ロボット等の先進技術を駆使しつつ、**デジタル化による様々なデータの取得・連携・活用により、ビジネスプロセスの最適化やオペレーションの効率化を実現**するデジタル・トランスフォーメーション（DX）へ向けた取組が重要。



3. 地域中小企業データ活用ブートキャンプ 事業概要

地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業(データ活用支援)の位置づけ

- 地域企業のデジタル化・DXの推進に向け、デジタル技術未導入といった初期段階から、業務効率化に取り組む中期段階、新ビジネスの創出といった高度な段階までデジタル技術活用の発展状況を階層別に分類。
- 本事業は高付加価値創出段階の企業を対象にデータ活用支援を実施。



令和5年度地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業概要

- 関東経済産業局管内の4地域程度にて、自治体・金融機関等と連携し、各地域の中小企業を対象に「データ活用人材」の育成を行い、地域企業のDXを推進。
- 「DXコーディネータ」に対して、支援人材育成研修も実施することで、各地域における支援プログラムの展開を期待。



Gunma Prefecture
群馬県



浜松市



八十二銀行



多摩信用金庫

各自治体・金融機関等の選定により、地域中小企業が参加するとともに、DXコーディネータが参画し、参加企業を伴走支援。

地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業

<地域中小企業向け>

- ・ 3段階のステップによる実証プログラム（全6回）及び個別相談会（全5回）を実施
- ・ 「データをためる」、「データをつなぐ」、「データを分析・活用する」という視点により、参加企業が「目指すべき方向性」の共通理解を得ることをサポートし、自社の強みを活かした、活動計画を企画・実証

STEP1

- ・データ活用理解
- ・分析ツール理解

STEP2

- ・企画検討
- ・実証計画策定

STEP3

- ・企画実証
- ・企画ブラッシュアップ

<DXコーディネータ向け>

- ・ 企業向けの3段階のステップに合わせ、支援に必要な支援ノウハウを学べる研修（全5回）を実施
- ・ 「DXコンサル方法」、「活動計画策定支援ポイント」、「実証支援ポイント」等を座学及びワークショップで学ぶとともに、株式会社クニエと一緒に参加企業を伴走支援することで、実践的なノウハウを習得



各地域への普及・横展開

令和6年度以降、各地域におけるプロジェクトの展開をサポート・他地域への展開に向け成果を普及

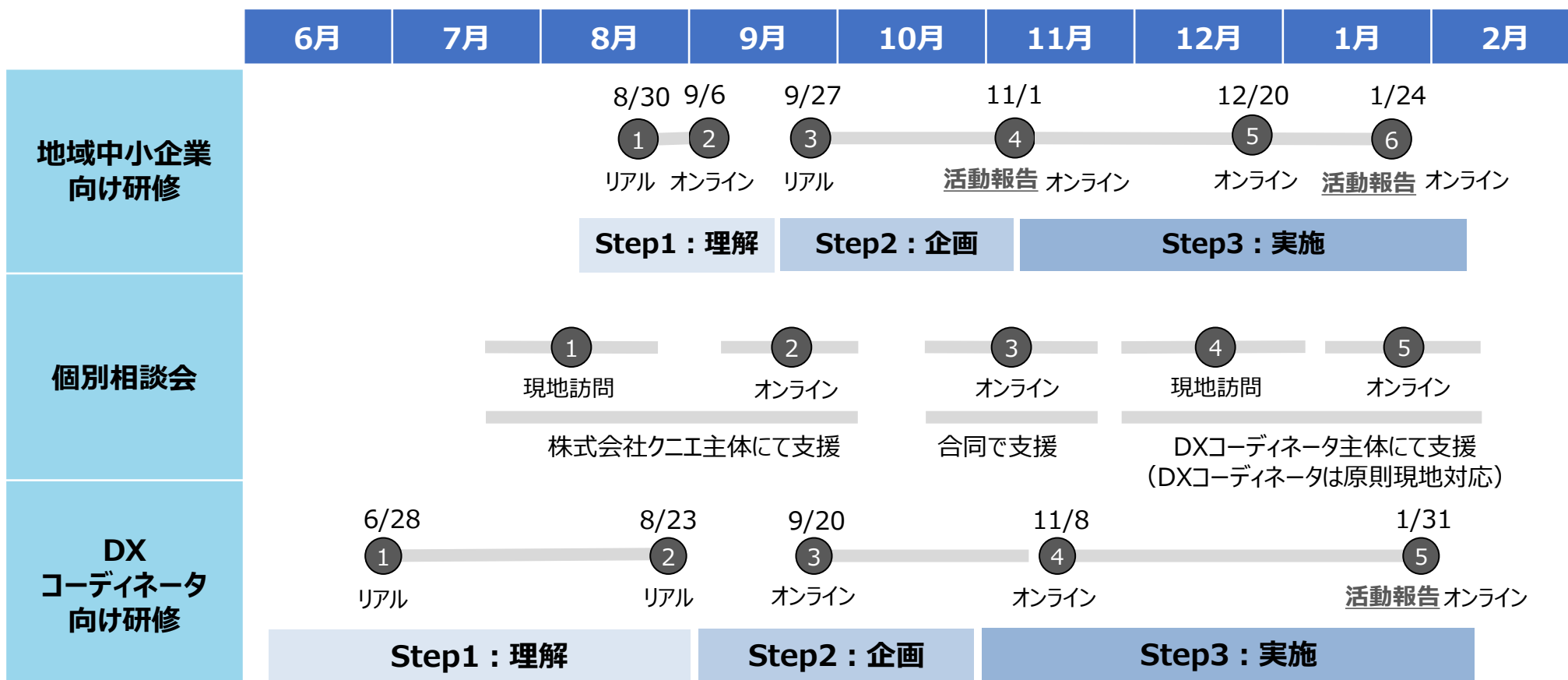
参加企業及びデータ活用テーマ

- 各企業が支援機関のサポートの下、データ活用テーマを設定し、検証を実施。

企業名	データ活用テーマ	支援機関
株式会社土屋合成	データを用いた判断指標の作成	群馬県 公益財団法人 群馬県産業支援機構 群馬県立産業技術センター
株式会社日東電機製作所	構造設計の出図時間削減	
城北機業株式会社	原価情報の一元管理	
某社（製造業）	高付加価値製品の加工時間創出	浜松市 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 株式会社八十二銀行
西田技研工業株式会社	生産量維持、向上のための加工技術承継	
株式会社八洲	工事管理データの運用適正化＋活用	
株式会社オギノパン	データを活用した各店の売上予測と発注業務の効率化	多摩信用金庫
中村建設株式会社	工事施工業務の可視化・効率化	

令和5年度事業スケジュール

- 令和5年6月末から翌年1月末までのスケジュールで実施。
- 「地域中小企業向け研修」「DXコーディネータ向け研修」では座学・ワークショップによる実演を行いながらノウハウを体得し、「個別相談会」では個社ごと活動をサポートを実施。



4. DX・データ活用支援 ナレッジ集について

本資料の全体像

- 本資料は「**ブートキャンプ概要集**」「**ノウハウ集**」「**事例集**」で構成される。
- “DX・データ活用に取り組む企業”や“当該企業を支援する機関”にとって、参考となる内容が掲載されているので、今後の取り組みに活用していただきたい。

DX・データ活用支援ナレッジ集

ブートキャンプ概要集

内容

- 日本におけるDX・データ活用の取り組み状況とその必要性について
- 令和5年度地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業の実施内容と事業効果について

活用例

- ✓ DX・データ活用に向けた取り組みの意義について学ぶ
- ✓ 本事業の取り組みを参考にして、自らデータ活用に挑戦する事を検討する

ノウハウ集

- DX・データ活用に関する基礎知識やプロセスについて
- 支援機関による伴走支援のポイントや体制構築に向けた組織作りについて
- 企業の高付加価値化に向けた企業・支援機関のスキルチェックシートの活用について

- ✓ DX・データ活用の基礎知識について学ぶ
- ✓ 支援機関における伴走支援のアプローチやポイントについて学ぶ
- ✓ 企業の伴走支援に求められるスキルを理解する
- ✓ スキルチェックシートを活用して今後の方向性を判断する

事例集

- 本事業参加企業の取組内容と成果創出に向けた連携団体による伴走支援の事例

- ✓ 参加企業の取り組みを参考にして自社のDX・データ活用に向けた取り組みを検討する
- ✓ 連携団体の伴走支援を参考にして組織的な支援方法、体制の構築を検討する

監修



株式会社クニエ
TxBチーム

シニアマネージャー	星 穰二
マネージャー	小倉 英一郎
マネージャー	高安 直翔
シニアコンサルタント	窪田 吉倫
シニアコンサルタント	土田 和幸
シニアコンサルタント	田中 達也
シニアコンサルタント	深谷 隼
シニアコンサルタント	清水 彰久
コンサルタント	徳永 哲史
コンサルタント	西村 美紀

監修支援

マネージングディレクター	里 泰志
マネージャー	畠山 敦志